

絶滅のおそれのある希少植物「シナノショウキラン」の保護で NIOC賞受賞!!

エネルギー応用研究所では、環境保全に関する研究開発の一環として、以前より中部地方の希少植物の保護に取り組んできましたが、このたび、津田その子さん(バイオ技術G陸域生物T)と守谷栄樹さん(バイオ技術G陸域生物T)が、これまで不可能とされていた希少なランの保護技術を完成し、名古屋ドームで開催されたフラワードーム2004と同時開催の名古屋国際蘭会議にてNIOC賞を受賞いたしました。

3月11日に開催された“名古屋国際蘭会議(NIOC)2004”の受賞記念講演では、高円宮妃殿下ご臨席のもと、この研究成果を紹介するとともに、3月12日から名古屋ドームで開催された「あいち花フェスタ フラワードーム2004」にてポスター展示されました。



高円宮妃殿下ご臨席のフラワードーム開会式での表彰



シナノショウキラン

電力技術研究会シリーズ

新技術専門部会は、社外委員4名(大学関係3名、関連会社1名)当社委員9名で構成され、以下の新技術に関する4つの幅広い研究テーマについて取り組んでいます。

新エネルギー技術

新素材技術

電力貯蔵技術

特に最近のテーマとしては、当社が重点的に取り組んでいる高温超電導線材や燃料電池に関する技術、電力貯蔵用として研究されている二次電池など、将来の電気事業への寄与が期待される最新の技術を中心に取り上げています。

4月16日、技術開発本部で開催した第45回の部会では、社外委員から、固体酸化物型燃料電池(SOFC)のセル材料に使用されている「ジルコニアの導電性」や「熱電変換材料とその応用」、「円筒型リチウムイオン電池」に関する研究などが紹介されました。一方、社内委員からは、「愛知万博での燃料電池実証試験の概要」、「超臨界水を用いた超重質油利用技術の開発」

新技術専門部会

を報告するとともに、本部内に昨年12月完成した実験棟内の超電導実験設備を視察するなど、最先端の新技術に関する研究について熱心な情報・意見交換が行われました。



超電導実験設備の視察